

（仮称）産業ミュージアム 基本構想・基本計画

第2回検討会

2025年5月19日

本日の議題

1. 検討会概要の共有 【P 2】

2. 本日の実施事項 【P 4】

史跡公園の整備方針、
3. 「板橋区産業振興構想2035骨子案」、
整備地概要の共有 【P 6】

4. 基本構想策定に向けたご意見のお伺い 【P12】

参考資料 【P14】

1. 検討会概要の共有

検討会の位置づけとスケジュール

検討会の位置づけ

産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定に当たり、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」を活用した板橋の産業ブランドの向上に関して専門的な知見等に基づく意見を聴くため設置しました。

区は、基本構想及び基本計画の策定に当たり、検討会で聴取した意見を十分に考慮するとともに、基本構想及び基本計画に反映させるよう努めます

※検討会設置要綱第1条・第7条より抜粋

検討内容

回

日時

基本構想・基本計画 (中間)

1

2025年5月8日(木)

9時半～11時半

2

2025年5月19日(月)

15時～17時

3

2025年6～7月頃

未定

4

2025年8～9月頃

未定

5

2025年10～11月頃

未定

6

2025年12月頃

未定

基本構想・基本計画 (最終版)

2. 本日の実施事項

前回は整備地の歴史的価値の高さを中心にご説明しました。
本日は歴史的価値と並んで抑えるべき重要要素のご説明と、基本構想
（案）を踏まえて具体的にどのような事業が考えられるか？について
助言・意見を頂戴出来ればと思います。

第1回検討会

- 会長に埴委員を、副会長に大森委員を選出
- 史跡公園と産業ミュージアムの整備概要をご説明
- 産業ミュージアムが持つ歴史的価値、文化的意義の高さを
現地視察しながらご説明

第2回検討会
（本日）

- ① 産業ミュージアムの整備に当たって、歴史的価値と並んで抑えるべき
 - ✓ 史跡公園の整備方針
 - ✓ 現在の板橋区の産業および今後の将来像と戦略・施策
 - ✓ 加賀エリアの概要
のご説明
- ② 基本構想（案）へのご意見のお伺い
 - ✓ 具体事業へ落とし込んでいくうえでの重要な観点や
想定される障壁・懸念は何か？
 - ✓ 具体事業として考えられる事例 等

3. 史跡公園の整備方針、「板橋区産業振興構想2035 骨子案」、整備地概要の共有

歴史的価値を「活かす」ことを前提として、“憩う”・“学ぶ”・“創る”を 史跡公園全体の基本方針としています

板橋区史跡公園（仮称）基本構想

基本 コンセプト

板橋の歴史・文化・産業を体感し、
多様な人々が憩い、語らう史跡公園

整備の考え方

近代化・
産業遺産の
保存・活用

ふるさと板橋を
愛する
心の醸成

ブランド力の
更なる向上

板橋の力の
結集と
新たなシンボル
の創出

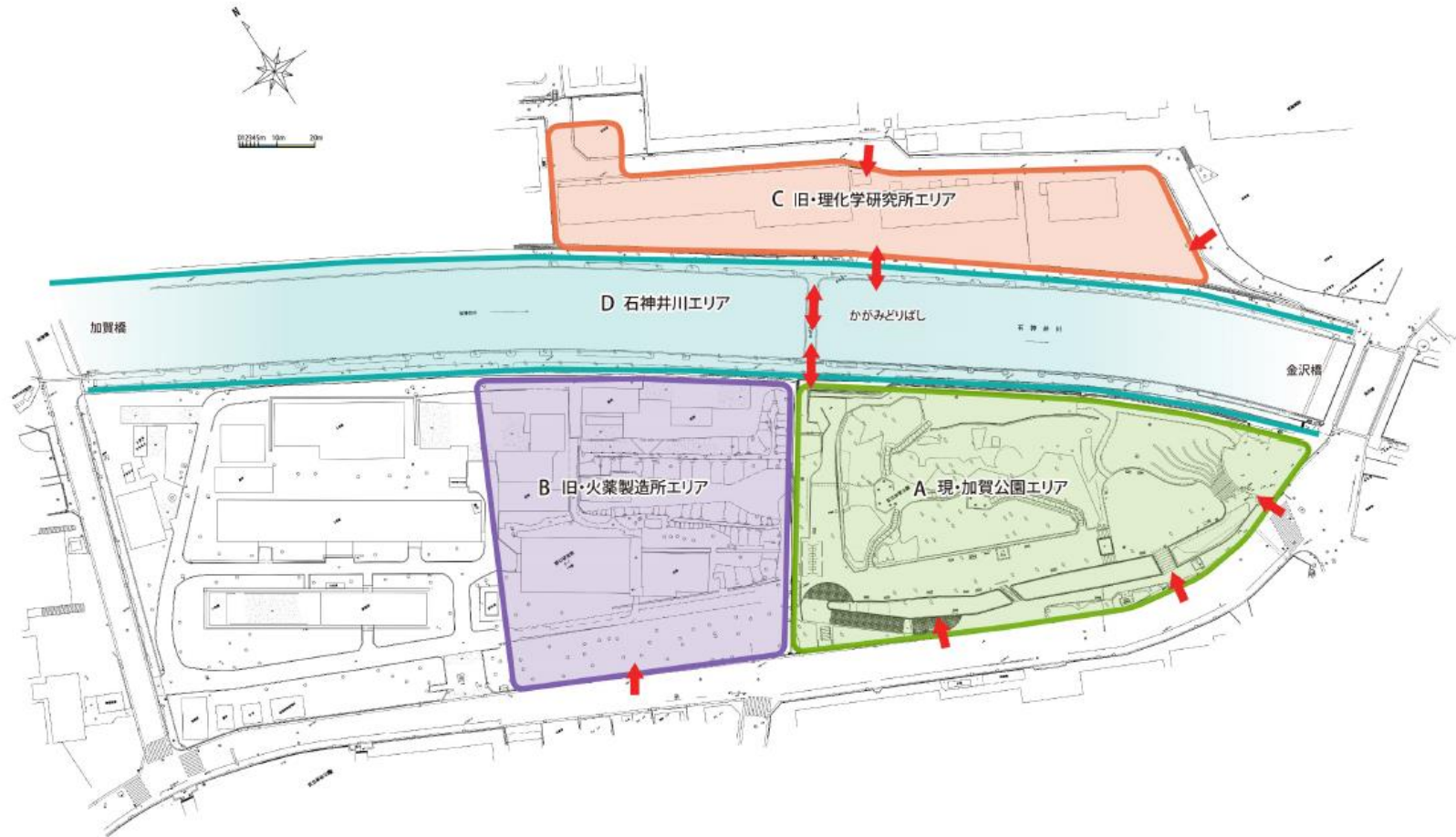
基本方針

“憩う”
にぎわい創出

“学ぶ”
人材育成

“創る”
産業振興

史跡公園はA 現・加賀公園エリア、B 旧・火薬製造所エリア、
C 旧・理化学研究所エリアに分けられ、産業ミュージアムはCに当たります



エリア区分図

史跡公園の各エリアの特色に合わせて整備方針を検討しています

板橋区史跡公園（仮称）基本構想

整備方針

“憩う”
にぎわい創出

現・加賀公園エリアは
安らぎの場・子どもの遊
び場としての機能を継承

各エリアとの動線や
史跡公園の散策路など、
整備地周辺を面的に
とらえ一体的に検討

歴史的価値を活かした
情緒あふれる環境整備

“学ぶ”
人材育成

旧・火薬製造所エリアを
中心に、板橋が日本の
産業や科学技術の発展
を支えてきた軌跡を学ぶ

現・加賀公園エリアは
金沢市との交流について
紹介することで郷土史を
学ぶ機会を創出

旧・理化学研究所エリアは
建造物をそのまま活用し
産業ミュージアムとして再生
することにより子どもたちを
はじめ区民の体験学習の
場として整備

“創る”
産業振興

旧・理化学研究所エリアは
湯川秀樹博士の研究室の
再現と展示を通じて、
区内産業発祥の地としての
歴史や先進性を臨場感を
持って体験できる場

板橋の産業を支えるもの
づくり企業の技術や先進研
究の紹介、研究者や企業
人の交流、利用者との対話
を促し「ものづくりの板橋」
としてのブランドを発信

地域、産業界、商業界、
観光や文化団体等と
連携し、区民に“愛され
る”・“再び訪れたくなる”
史跡公園を整備

板橋区産業の現状と、今後目指す将来像および将来像実現に向けた戦略・施策について別紙を用いて説明いたします

板橋区産業振興構想2035骨子案（概要版）を用いて説明

産業ミュージアムのある加賀地域は、教育施設および公共施設が集まり、ファミリー世帯が集積する、区内屈指の文教エリアであることが強みです



人口数は約1万人と板橋区内では17番目だが
0～15歳比率・0～19歳比率はトップ※

	エリア	0～15歳 比率		エリア	0～19歳 比率
1	加賀	19.0%	1	加賀	23.7%
2	大門	15.3%	2	大門	19.0%
3	稲荷台	15.2%	3	四葉	19.0%
4	相生町	14.5%	4	稲荷台	18.3%
5	四葉	14.1%	5	相生町	18.3%
6	東坂下	14.0%	6	前野町	16.6%
7	前野町	12.9%	7	東坂下	16.5%
8	小豆沢	12.9%	8	西台	16.4%
9	西台	12.6%	9	小豆沢	16.0%
10	舟渡	12.2%	10	舟渡	15.5%

※「板橋区年齢別人口表令和6年11月1日」より作成

4. 基本構想策定に向けたご意見のお伺い

これまでの整理および仁科芳雄・湯川秀樹の思いから、産業ミュージアムの基本理念・基本コンセプトを検討しました。この方向性を踏まえて、具体的にどのような事業が考えられるか？について助言・意見を頂戴出来ればと思います



仁科芳雄

“環境は人を創り
人は環境を創る”



湯川秀樹

“未知の世界を探求する人々は、
地図を持たない旅行者である”

ミュージアムの
基本理念

板橋区産業の原点としての産業ブランドの向上と未来産業・理系人材の創出

ミュージアムの
基本コンセプト

本物×未知の体験を提供する都内唯一の“産文教”拠点

ミュージアムの
方向性

方向性①
“産”業の創造

産官学が連携した
研究拠点

近代化遺産ならではの
社会実証・実装フィールド

方向性②
“文”化の創造

“本物の”近代化遺産とし
ての歴史的価値の発信

区内の産業が結集し産業ブランドを体現する、
付加価値の高い体験の提供

方向性③
“教”育の創造

次世代のトップ理系
人材の育成

ミュージアムの
主要機能

参考資料

調査結果①_史跡公園、旧・理化学研究所の歴史・概要

整理目的	整理項目	ファクト
歴史的価値の理解	戦前の活用方法と区産業への影響	本質的価値：明治から終戦まで近代的な火薬製造所及び研究所が設置され、その建造物や遺構が群として残る - 江戸時代は加賀藩前田家の下屋敷の一部であった。幕末には、異国船の江戸近海への渡来を受けた海防強化のため、石神井川の水力を動力源として、西洋流の大砲の鑄造が行われていた。 - 明治9年に政府が火薬製造所を新設した。その後敷地内に火薬の安全性を研究するための、日本初の近代的な国立の理工学研究所を設置され、昭和20年まで国内有数の火薬工場として稼働した - 火薬製造所周辺には、光学兵器を製造する民間工場を中心に、多数の軍需工場群が形成された - 後年の改変も認められるが、建造物内には爆薬の取り扱いに適した構造も認められ、文化財的な価値を有す
	戦後の活用方法と区産業への影響	本質的価値：戦後復興期には先進的科学技术研究の拠点となり、世界に発信された - 終戦により、火薬製造所及び火薬研究所の活動が終了し、現在の史跡指定地に現在の公益財団法人野口研究所が入所、理化学研究所「板橋分室（後の「板橋分所）」開設 仁科芳雄博士が研究室を構え、宇宙線研究を展開。後年ノーベル物理学賞を受賞することとなる湯川秀樹博士も、仁科博士のもとで研究を行い、後にここで研究室を構えた 「スーパーコンピューター」の立ち上げも行われた - 整備地の近辺では、国立極地研究所や計量研究所（現産業技術総合研究所）などの自然科学系の研究所のほか、民間企業の研究所（資生堂化工、東洋インキ）が長く所在していた時期があり、加賀エリアは、研究所が機能、集積していた歴史を有している - 戦前に集積した光学軍需産業は平和産業に転換し、とりわけ光学は、現在に至るまで、板橋区の地場産業を牽引している

調査結果②_板橋区産業の現状と今後の方向性および産業支援施設の在り方

整理目的	整理項目	ファクト
区内産業の 今後の方向性の 理解	今後の板橋区の 産業振興の視点	「変革」「連携」「集積」を基本的な視点とし、成長志向の産業育成に取り組んでいく
	区内産業の 将来像と方向性	- 板橋区がハブとなって区内外の事業者・団体のネットワーク強化とイノベーション創出を促進し、「板橋区産」・「板橋区発」であることの付加価値を高め、さらに新たな事業者・団体・ひとを呼び込む産業が成長を続ける循環が出来ている「ブランド創造都市」を目指す - 将来像実現のために、成長の軸であるイノベーションのドライバーとなる「板橋重点イノベーション分野」にヘルスケアとドローンを定め、イノベーションを加速させていく
次期構想における 産業支援施設に 求められる要件の 理解	区内の産業支援 施設の在り方	- 将来像実現のために掲げる7つの戦略を実行していくために必要な機能を持った産業支援施設を整備していく 中核となる産業支援施設はイノベーション・エコシステムのハブとして活用し、他の産業支援施設は、施設立地エリアの特色を踏まえて、備えるべき機能を戦略に沿って検討していく

調査結果③_整備予定地の現況

整理目的	整理項目	ファクト
整備予定地の現状の活用方法の理解	都市計画の中での位置づけ	- 加賀周辺では、にぎわいのある旧中山道沿いの仲宿商店街や板橋宿不動通り商店街等のほか、<u>近代化遺産群等の点在する観光資源を活用した回遊性の向上</u>を図ることが求められている - 商店街の賑わいと、史跡公園周辺地の自然豊かな静寂感とのコントラストがこのエリア全体の大きな魅力になっており、今後はその歴史的環境や資源を十分に活かし、史跡公園と周辺部を連関させた整備を進めていく計画 - 石神井川沿いは<u>景観形成重点地区</u>に指定されており、区は「石神井川の桜並木」として「板橋十景」のひとつに選定している。特に例年3月中旬から4月中旬にかけては、夜間にぼんぼりの点灯によるライトアップが行われ、夜桜を見物する利用客でにぎわっている。
	周辺施設	- 小学校～大学まで多くの<u>教育施設が多く存在</u> - 特別養護老人ホーム、病院、植村記念加賀スポーツセンター、東板橋図書館、こども動物園など<u>公共施設が比較的多く存在</u>
	産業集積状態	区の中で比較的<u>産業が集積していない住宅エリア</u>
施設利用が想定される近隣住民・滞在者の理解	近隣住民の属性	- かつて工場などがあった土地に、平成10年頃から平成28年にかけて大型集合住宅が約2,300戸建設されており、<u>子どもたちの数が増加</u>してきた地域。区の中で0～15歳の割合・0～19歳の割合ともに1位 - 平均世帯人員は区の傾向と異なり平成26年10月の2.45から平成30年10月の2.62へと増加している。これは平成26年以降大型マンションの建設が続き、<u>ファミリー世帯の転入が増加した影響</u>であると考えられる
	昼間人口	住宅街が広がる文教エリアであり、比較的産業も集積していないため、通勤者ではなく通学者が中心（昼間人口の区内エリア別統計が無いため分析不可）
域外からの集客性の理解	交通至便性の理解	公共交通機関からのアクセスは駅徒歩10-20分程度と、<u>交通至便性が高いとは言えない</u>
	観光客数・属性の理解	<u>住宅エリアであり、周辺に観光施設は少ない</u>

調査結果のまとめ

史跡公園 旧理化学研究所の概要・整備予定地の現況	強み	近代化遺産としての高い歴史的価値 (戦前・戦後の“本質的価値”)	区産業の原点としてのストーリー	産官学が連携して 価値を保存していく機運
		ファミリー世帯が多く教育施設・ 公共施設が集積する文教エリア	景観性の高さ・ 周辺住民の憩いの場	周辺に近代化遺産群が点在
	弱み	交通至便性の低さ	周辺に集客力のある 観光施設は無い	産業は集積していない
都市計画・板橋区の産業振興の現状と今後の取り組み	機会	板橋・加賀エリア内での回遊性の向上・ ウォーカブルなまちづくり	「ブランド創造都市」実現に向けて イノベーションを軸とした 成長志向の産業育成に取り組んでいく	ヘルスケア・ドローンを「板橋重点 イノベーション分野」に設定
		都内有数の工業都市でありつつ 商業・農業も発展	「陸軍板橋火薬製造所」を契機に集積が 進んだ光学・精密機器産業の 世界に誇る技術力	構想の戦略実行に必要な機能を備えた 産業支援施設の整備
	脅威	イノベーションをけん引する スタートアップの少なさ	工業都市でありながら理系大学が無く 理系人材が不足している	区内・区外どちらに向けても 区内産業の認知度が不足している
		社会実証・社会実装の フィールドの少なさ		

産業ミュージアムにおける主要機能（案）

		機会	脅威
		板橋・加賀エリア内での回遊性の向上・ ウォーカブルなまちづくり 「ブランド創造都市」実現に向けてイノベーションを軸とした 成長志向の産業育成に取り組んでいく ヘルスケア・ドローンを「板橋重点イノベーション分野」に設定	イノベーションをけん引するスタートアップの少なさ
		都内有数の工業都市でありつつ商業・農業も発展 「陸軍板橋火薬製造所」を契機に集積が進んだ 光学・精密機器産業の世界に誇る技術力 構想の戦略実行に必要な機能を備えた 産業支援施設の整備	工業都市でありながら理系大学が無く 理系人材が不足している
			区内・区外どちらに向けても 区内産業の認知度が不足している
			社会実証・社会実装のフィールドの少なさ
強み	近代化遺産としての高い歴史的価値 （戦前・戦後の“本質的価値”）	区内産業の原点かつ発展の地としての 産官学が連携したイノベーションの創出	近代化遺産ならではの 社会実証・実装フィールド
	日本物理学会の中心的な場所・ 区産業の原点としてのストーリー		
	産官学が連携して 価値を保存していく機運		
	ファミリー世帯が多く教育施設・ 公共施設が集積する文教エリア		
	景観性の高さ・ 周辺住民の憩いの場		
	周辺に近代化遺産群が点在		
弱み	交通至便性の低さ	区産業の“原点”と“現在”を示す 区内産業とイノベーションによって高付加価値化された体験の提供	
	周辺に集客力のある 観光施設は無い		
	産業は集積していない		